

TAT				257000	
TAT				担当部署	
TAT				血液	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		強引な吸引採血や、不十分な抗凝固剤との混和、採取後の不適切な検体処理などにより、検体中にトロンピンを生じる場合があり、検査結果に影響を及ぼす。 非特異反応によって正しい結果が得られない場合がある。			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		空腹時静脈から採血し、気泡、溶血及び組織トロンボプラスチンの混入を防ぐ。 添付文書より			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1 全血	2 黒小	3.2%クエン酸 Na	1.8	mL	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) 凝固検体 3) 採血量過不足の検体 4) サンプルングできない検体			
保管検体の保存期間		室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）			

検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中			
生物学的基準範囲		0～4ng/mL EX 共通 CL1084 : 「三輪血液病学 2006」			
臨床判断値		設定なし			
基準値				単位	ng/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
0	4	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		妊娠後期、運動後は高値を示す。 採血が手間取ると、組織因子の混入などで凝固因子が活性化を受け、検体中の TAT が異常高値となることがある。真空採血管を使用する場合は、2 本目以降に検体を採取する。 EX 共通 CL1141 : 「臨床検査法提要 改訂第 35 版」 456-457			
臨床的意義		TAT は生体内での凝固活性化、トロンビン生成を反映する凝固系分子マーカーである。 TAT を測定することで、生体内の凝固亢進状態や血栓準備状態を推測することが可能である。 EX 共通 CL1084 : 「三輪血液病学 2006」1992-1993			